

下仁田町「街なか活性化事業」第1回検討委員会 議事録

- 日時 令和4年9月6日（火） 18時30分～19時50分
場所 下仁田町役場201会議室
出席者 検討委員 16名（1名欠席）
- 次第
1. 開会
 2. 委嘱状の交付
 3. 町長あいさつ
 4. 委員の紹介
 5. 委員長、副委員長の選出
 6. 議事
 - (1) 計画概要
 - (2) これまでの取組み（アンケート調査、事前意見交換会の結果）
 - (3) 政策検討の方向性
 - (4) 意見交換
 7. 閉会

■検討委員会の様子



■委員長、副委員長の選出

全会一致で以下の2名が選出された。

○委員長：熊倉委員（高崎商科大学特任教授）

○副委員長：佐俣委員（下仁田町区長会長）

■意見交換の内容（主な意見、感想）

- ・アンケート調査は、2,000人のうち773人から回答があった。この回答率は他地域と比べても高く、統計的に優位な結果と考える【高崎商科大学】。
- ・アンケート調査で自由回答が多いことに驚いた。それだけ町に対する想いが

強いということ。まちを上手く活用して、活性化して欲しいという思いを感じた。

- ・ 下仁田町まちづくり委員会でも活性化について検討してきた。今回の資料を見ると、10年前とほぼ変わらないものがキーワードとして出ている印象。これまでの検討結果と自分達の取組み内容を照らし合わせ、一緒になってやっていきたい。
- ・ 飲食店の立場からすると、「食文化」に対して好意的な意見があるのはありがたい。キーワードの中に「出前文化」があったが、人口減やコンビニの進出によって、出前の数はかつての10分の1程度になっている。
- ・ 街なかに住んでいないので、アンケートを回答する際に「自分事」として考えるのが難しかった。
- ・ 現在のままだと金融機関の運営は厳しい。下仁田高校や上信電鉄も生徒減や利用者減で厳しい状況。
- ・ 下仁田町に移住してきて思ったことは、子育てサービスが手厚いということ。子育て世代には優しいと思う。この点は、もっとアピールして欲しい。
- ・ 昭和レトロな街並みは、ジオパークの会の取組みとも関係する。景観を損なわず、安全を確保した上で歩けるようにして欲しい。
- ・ 町民を対象とする計画であれば、この事業方針で良いが、観光客を対象にするのであれば、楽しめるコンテンツが無いと厳しい。
- ・ 道の駅はコロナ禍においても来場者数が飛躍的に伸びていて、レジ通過人数で約20万人、来場者数は推定で約60万人。ただし、このうち、街なかに来ている方は1～2%程度ではないか。街なかに人を連れていくには大変な努力が必要。
- ・ 旅行会社や商談会でバスツアーを呼び掛けているが、なかなか誘致するのは難しい。
- ・ 提示されたキーワードの中から何か1つでも具現化してやってもらいたい。
- ・ 事前に何も聞かされないまま、アンケート調査や意見交換会が行われている。急にゼロベースで検討を行うと言われても納得はできない。

■まとめ

- ・ アンケート調査結果やこれまでに出了意見等を深掘り、焦点化するため、検討委員会の下部組織として、分科会を設置する（賛成多数で承認された）。
- ・ 分科会で検討した内容を次回検討委員会で報告する。

以上